

# ムッシュー、本場の宇治茶いかが

「宇治茶」の主産地・京都府和束町の茶農家らが、欧州での緑茶普及を目指して6日、パリに出発する。現地では最近、日本の緑茶が人気といい、ソムリエやバーテンダーらを招き、お茶の種類を飲み当てる「茶香服」などを催し、PRする。

和束町は、煎茶せんちゃの生産量が京都府内の約4割を占める。ただ、収穫した茶葉は「宇治茶」のブランド名で売られるため、茶どころとしての同町は地元以外ではあまり知られていない。このため、茶産地・和束の名も売り込む予定だ。

## 京都・和束町の農家

### パリへ売り込み行脚

パリでは同町商工会や生産者の計3人が、7日間の日程で活動する。煎茶や抹茶、ほうじ茶などを持参。高級ホテル「リッツ」の飲料部門の担当者や現地の日本料理店関係者らを招き、試飲してもらったり、おいしいお茶の入れ方を伝授したりする。

同町によると、パリでは日本の緑茶専門店ができるなど人気が出始めているという。同町商工会は「日本一の品質の和束の茶でおいしい入れ方や飲み方を知ってもらい、日本茶ファンをもっと増やしたい」と話している。